

待 兼 山



大阪大学経済学部同窓会

2021年（令和3年）4月1日 第37号

ホームページ <http://www.machikaneyama.jp>



ウィズコロナにおける大学教育

経済学部長・経済学研究科長 福田 祐一

昨年4月に経済学部長・経済学研究科長に就任して以来、早いもので1年が経ちました。この1年間の振り返りますと、やはり、新型コロナウイルス感染症への対応に追われる1年だったと思います。感染症拡大防止のため、4月2日の入学式が延期され、3日の新入生オリエンテーションも学生証や書類等の配布となりました。そして、8日からの緊急事態宣言をうけて、大阪大学でも、授業はオンライン形式のみ、学生の登校禁止等の措置が取られ、「学生の笑顔の消えたキャンパスが、これほど殺風景で、生気のないものなのか」を痛感する日々でした。6月上旬以降、大学では、学生の入校制限も緩和され、図書館や大学生協の業務再開、実験・実習等の対面授業再開と、活動制約が緩和されたものの、大規模授業が多い経済学部では、講義室での「密」を回避するため、春夏学期の全ての授業が、試験も含めてオンライン形式で実施されました。

秋冬学期については、大学から感染症対策を行った上での対面授業の実施が認められ、経済学部・経済学研究科でも、ほとんどのゼミは、対面で実施さ

れ、一部の学部授業と約半数の大学院授業も対面で行われました。その一方で、受講者数の多い1年生および2年生向けの全ての学部授業が、感染症対策で設定された教室の収容人数制約を満たさず、オンライン形式での実施となったことについては、大変残念に思っています。そんな中でも、10月31日には、E C O C Aの協力のもと、1年生向け対面企画として履修ガイダンス等を、2月3日には、対面形式による2つのミニ講義を開催し、多くの学生が参加してくれました。

4月以降も、ウィズコロナにおける学部および大学院教育について、オンラインと対面の良さをブレンドした教育効果の高い授業を実践していく施策を検討していきたいと考えております。そして、経済学部・経済学研究科が目標とする「冷静な頭脳」と「温かい心」を持った人材育成を進め、経済学部同窓会との関係を、より深めていけるよう全力を尽くしてまいります。今後も、皆様のご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



同窓会長ご挨拶

経済学部同窓会5.0

経済学部同窓会 会長 井上ゆかり

日本ケロッグ合同会社
代表職務執行者社長(新33期)

100年に一度の危機である新型コロナウイルス感染症の拡大から一年が経ちました。その影響をお受けになっている方々に心からお見舞いを申し上げます。同時に医療、介護、社会生活を支えてくださっている方々に深く感謝申し上げます。大阪大学経済学部もオンライン授業が主となり一連の行事も中止となったと伺っています。私共同窓会も恒例となっておりました行事を一切行えず、会員の皆様のお顔を拝見できない非常に寂しい一年間でありました。

同窓会としてはコロナ禍の空白の一年ではございましたが、2点ご報告できる内容がございます。昨年この場で、2つの課題についてお話し致しました。1つ目は大阪大学経済学部同窓会のこれからの在り方を模索していきたい、その為には各学年の代表幹事を積極的に参画いただけるメンバーに更新したいという趣旨を述べさせていただきました。役員一同メールやオンラインを駆使しコミュニケーションを図り、着々とその工程を進めております。7月の総会では新メンバーの紹介をさせていただく予定です。2つ目は、会費徴収率の低さへの懸念についての問題提議を致しました。卒業生の5%が納めてくださっている会費で同窓会が運営され、若年層になる程その率は下がっている旨をお伝えしました。同窓会の第一の目的はお世話になった母校の在校生と教員の皆さんをお支えることです。母校への愛と誇りが源泉である団体です。記憶に新しい経済学部70周年記念事業として、前経済学部長でいらした堂目先生と前同窓会会長の古川会長の下、同窓会役員の皆様の奮闘で同窓生の皆様から、3,000万円の寄付を集めることができ、経済学部大学院博士後期課程への進学や海外留学の経験などを促進するための素地を作ることができました。一人でも多くの大阪大学経済学部生がアカデミアの世界において高い影

響力を持てる人材として育ち、社会的課題を解決できるリーダーとなって欲しいと願ってのことです。早い段階から、母校への愛と誇りを育てていただくために、入学時に同窓会を知ってもらおうという主旨で、4月3日に、同窓会主催で新入生とご父兄を対象としたオンライン歓迎会を行うことに致しました。福田学部長にご挨拶をいただき、同窓会の活動紹介と共に、新30期卒業の元スターバックスコーヒージャパンCEOの岩田さんにご講演いただきます。初めての試みですが、若年層の同窓会参画(ESCOCA)のきっかけになればと願っています。結果は7月の総会で報告させていただきます。

本年、大阪大学は90周年を迎えます。混沌とした時代、持続的社會発展をどう促していけばよいかという新しい課題に私たちは直面しています。待った無し、今手をつけなければなりません。その為には、アカデミアである大学と、実業である産業界、そして、制度政策を立案する行政の連携が不可欠です。大学と産業界の連携の一翼を同窓会が担うことは可能であり、課題解決のスピードを増す為には、お役に立てることがあればと願います。同窓会を通じて経済学部の先生方の研究課題と、同窓生が抱えている課題が共通する部分を見つけることを頻繁に活発に行うための仕組み作りを具体的に考えていくことができればと思うのです。

今後の同窓会の在り方を新代表幹事チームと共に模索して参ります。その際には幅広く同窓会会員の皆様の意見も参考にさせていただく所存です。7月3日の総会の形態は流動的ですが開催致します。多くの皆様にご参加いただければと存じます。今後とも会員皆様のご協力ご支援をお願い申し上げます。

「第24回大阪大学経済学部同窓会総会・懇親パーティー」のご案内

下記により準備を進めていますが、コロナ禍の状況によりオンライン開催となる場合がありますことをご了承ください。同窓生の皆様のご参加をお待ちしています。

日時	7月3日(土) 14時30分～18時30分 (14時より受け付け)	〈次第〉	14時30分～ 総会 15時15分～ 記念講演
会場	リーガロイヤルホテル大阪 タワーウイング3階 光琳の間 (大阪市北区中之島5-3-68 TEL 06-6448-1121)		ローソン株式会社 社長 竹増貞信氏 (新41期、1993年卒)
会費	事前振込 5,000円 (当日 6,000円)		16時30分～ 懇親パーティー(18時30分終了予定) なお、オンライン開催となりました場合は、懇親パーティーは非開催、会費は無しといたします。

東京待兼会だより

会長 西本 麗 (新28期)

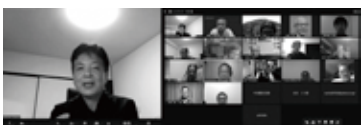
東京待兼会では、東日本の同窓生の交流促進のため現状のコロナ禍の下でできる、さまざまな活動を行っています。開催した主な行事を紹介します。

1. 20年度春秋懇話会・総会

例年は法学部（青雲会）と共催で講演会及び懇親会を開催しています。春季はOFC（経済学部オープンファカルティセンター）とも共催ですが、昨年は春・秋いずれもコロナ禍のためリアルで開催することができず、特別講演会としてオンラインでの講演会を実施しました。また隔年春季懇話会に合わせて開催の総会もオンラインでの議決により新体制が発足しました。

【オンライン特別講演会①】

10月8日、オンライン（ZOOM）で大阪大学経済学研究科 延岡健太郎教授が登壇されました。「顧客価値のイノベーションー日本企業に求められる価値づくり経営」とのテーマで約1時間のお話の後、活発な質疑応答がありました。



【オンライン特別講演会②】

2月3日、オンライン（ZOOM）で大阪大学経済学研究科 松村真宏教授に講演をお願いしました。テーマは「仕掛学」で1時間のお話のなかで数多くの事例を紹介いただきました。



【21年度春季懇話会】

6月11日（金）に春季懇話会を予定しています。講師は堂目卓生大阪大学経済学研究科教授にお願いしています。例年どおり会場での開催を予定していますが、今後の状況で見直す場合もあります。

2. 例会

「知の継承」をめざし例会（勉強会）を開催しています。こちらもオンラインで実施しています。毎回10～20名規模で開催。講師は基本的に同窓生の持ち回りです。

- 第23回 3月13日 久保恵一氏 「ゴーン氏海外逃亡事件にみる有報虚偽記載とその概要」
- 第24回 9月5日 大塚ジェイ氏 「お笑い実践講座 VOL.1 お笑いの仕組みを知ろう！」
- 第25回 12月18日 三浦洋氏 「Postコロナの地政学～10年後の世界パワーバランス」
- 第26回 3月20日 福永安里氏 「これを聴いておかないと死んでも死にきれない必聴のクラシック音楽」
- 第27回 4月17日(予定) 松井範惇氏 「飢饉、飢餓と災害」

3. ゴルフ部会

令和2年秋ならびに令和3年新春のゴルフコンペは中止しました。

告知

東京待兼会春季懇話会を開催します

令和3年6月11日(金)18:00～
学士会館(千代田区神田錦町3-28)にて
講師 大阪大学経済学研究科・経済学部
教授 堂目卓生氏

東京待兼会 (<https://tokyo-machikanekai.org/>)



名古屋待兼会だより

会長 井内 敬 (新11期)

名古屋待兼会は、愛知・岐阜・三重にお住いの阪大卒業生が主な会員です。会の活動は「小の月の第3土曜日の18時から」を基本に、場所は名古屋の中心部に近いホテルで例会を開催、11月は総会です。毎回20名前後の出席で、例会の冒頭では会員の方が交代で様々なテーマで約30分話をし、その後は懇談です。懇談中に、出席された方々に近況や関心事などを話していただける場を設けていることもあり、交流をさらに深めることができます、それも名古屋待兼会の特色の一つです。

しかしながら、コロナ感染防止対応のため、昨年は2月例会のみ開催、それ以降の例会、総会は残念ながら全て中止といたしました。

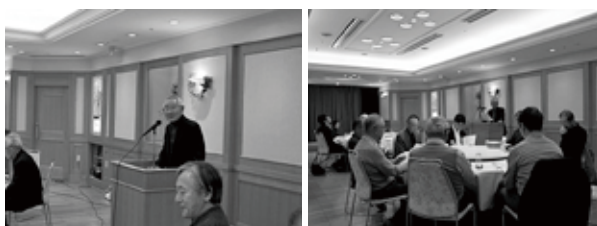
当会は昭和30年代に経済学部、法学部の卒業生を中心に発足し、現在は全学部の卒業生にまで会員拡大していますが、約60年間の歴史の中で会合開催を1年以上も休止することは初めての出来事です。例会、総会への参加者の多くは学生時代から続く交流や、世代を超えた会員同士の語らいを楽しみにしています。それだけに年5回

の会合の意義を再認識するとともに、諸先輩が築かれた交流の場を継続させていくことが我々の使命と考えています。明けない夜はないはずですから、会員の皆さんが顔を揃える日が早く来ることを願うばかりです。

昨年の活動は以下のとおりです。

■ 2月例会 「80歳を迎え、担当した海外関係を振り返る」
平野修義さん (S37・法)

■ 4月以降の例会、総会は全て中止。



新常態(ニューノーマル)を生きるために

大阪大学大学院経済学研究科教授 佐々木 勝



◆経済学部の現況とYouTubeによる広報活動

2020年前半から猛威を振るう新型コロナ・ウィルス感染により、大学生生活は一変した。前期に該当する春～夏学期では基本的にメディア授業を行い、後期の秋～冬学期は少人数に限って対面式授業が実施されたが、受講者が多い科目ではメディア授業を継続した。教員、学生ともメディア授業による授業方法は、ある程度学習効果があることを改めて発見したが、大学生生活というのは、学生がただ単に授業を受けて単位を取得するようなことではない。むしろ、授業以外のところで同級生と語り合い、交流し、お互いに刺激しあうところが大学で学ぶ大きな目的の1つである。今年度はそのような学生同士の交流が実現できなかったことは残念であるし、申し訳ないと感じる。新たな年度は、コロナ感染が終息し、元の大学生生活に戻ることを期待する。

「未来の阪大生」である高校生のためのイベントとして位置づけされているオープンキャンパス。これもまたコロナ禍のためキャンセルとなってしまった。大学の雰囲気を感じることができるイベントだけにキャンセルは残念であった。しかし、高校生にアウトリーチしなければ、という思いから本学は「アプリdeオープンキャンパス」を開設し、「学部紹介」や「学生の声」などを部局別に動画コンテンツをアップした。

それを機に、もっと高校生に対して経済学・経営学の面白さを伝えようという思いから、経済学部公式のYouTubeチャンネルを開設し、上記の動画だけでなく、本学部の先生に自分が研究している内容をわかりやすく解説していただく動画を継続的にアップしている。2020年11月から配信をスタートし、現時点で10本の動画が視聴できる。動画の編集は業者に任せているが、企画や撮影は我々が行っている。如何せん素人が作成するものなので、映像としては素人感が拭えないが、ぜひ高校生だけでなく、多くの人に視聴してもらいたい。動画配信を通じて、大阪大学経済学部に興味を持っていただき、経済学・経営学の魅力を感じてもらいたい。

◆ポスト・コロナ後の日本経済は？

コロナ禍により一変したのは学生生活だけではなく、働き方も大きく変わった。これまでは毎朝電車に揺られて勤務先に赴き、そこで6時ごろまで業務をこなす働き方から、自宅でリモートによる働き方に変わってきた。これまで気づけなかったリモートによる働き方のメリットに気づいたのか、ポスト・コロナの時代でも積極的にリモート・ワークを採用し続ける予定の企業は多いし、リモート・ワークを求める労働者も多い。リモー

トによる働き方が新常態(ニューノーマル)になると思われる。

リモートによる新しい職場環境では、従業員同士が直に会って仕事をする機会が減ってしまった。これまでなら、部下を評価する立場にある上司は、目の前にいる部下の働きぶりを直に観察することができた。しかし、リモート主体の職場環境では、部下の働きぶりはなかなか観察することができない。つまり、「情報の非対称性」の状態である。では、部下の働きぶりを完全に観察できない中、どうやって部下の働く意欲を高め続けることができるだろうか。

1つの方法としては、観察可能な「成果」で働きぶりを判断することである。最近、「ジョブ型雇用」という雇用制度を耳にしたことがあるだろうか。これはこれまでの新卒一括採用や年功序列のような「メンバーシップ型雇用」とは異なり、業務内容に応じて採用し、業務の達成度に応じて報酬を支払う制度である。上司と部下が業務内容などの労働条件を事前に職務記述書に記載し、お互いに合意した上で働く。そして、職務記述書をもとに業務が達成できたかを確認し、成果に応じて報酬を支払う。リモート・ワークを導入するとともにジョブ型雇用制度を導入する企業は増えている。

◆阪大生・OB・OGは如何に働き方を変えるのか

企業がメンバーシップ型雇用からジョブ型雇用に移行していく中、業務内容に応じた自分の強みや専門的な技能を習得していく必要があるだろう。専門的な技能といっても、プログラミングのように手に職をつけられる資格だけでなく、チームをまとめてプロジェクトを遂行するリーダーシップも専門的な技能である。常に自分に見合った資格や技能はなにかを意識していくことが重要である。

とはいっても、大学生にとって業務内容に応じた技能と言われても困惑するだけだろう。大学時代は、まず全ての業務に必要な不可欠な一般的技能を習得することに専念すべきである。一般的技能とは何か？それは論理的な思考能力である。大学における様々な授業は、物事を体系的に考える論理的な思考能力を身につける訓練と捉えることができる。プログラミングなどの業務遂行に直結する技能のように「役に立った」という実感は湧きにくいのが、社会人にとってキャリアを通じて必要な技能なのでぜひ身につけてほしい。我々は、学生がその一般的技能を身につけられるようにするために、努力することを惜しまない。



株式会社ハイパーマーケティング
代表取締役

谷 正行 さん (新20期)

広島から大阪大学へ

私は広島郊外の瀬戸内海に面した小屋浦という村で、爆二世として生まれ、広島で育ちました。当時の広島は暴力団抗争が激しい時期。中学生時代にこのような抗争が身近にあったことから、強いもの（権力、暴力、法的束縛）への対抗力と自主自立精神を持って育ったように思います。また、原爆ヒロシマの身近な経験から、ヒロシマ発信の命題を抱えているように思います。

多くの企業の上場や経営に携わる

学生時代は、宮本匡章ゼミに所属しました。ゼミでのIR (Investor Relations) の経験が、以後携わるITの第一歩となりました。また、1970年の日本万国博覧会で公認通訳者を務めたことで、海外への関心が高まりました。

大学卒業後は、伊藤忠商事に入社し、IT部門へ配属。語学研修生として中国語を専攻し、80年にはロサンゼルス駐在となりました。

85年にリコー米国副社長としてリコーに転籍し、デジタル販売を担当。その後、リコーの経営改革委員長を務めました。94年にはIBMの子会社であるレックスマークの日本法人社長に就任し、ニューヨーク証券取引所に上場を果たしました。96年には環境貢献会社であるハイパーマーケティングを設立し、現在も代表取締役を務めています。船井電機の上場にも携わり、2002年には同社の取締役に就任するとともに、FUNAI USA会長、FUNAI EUROPE会長も務めました。

2012年には、ベンチャーインキュベーションである「Horizon (ホライゾン) 倶楽部」を設立し、共同代表となりました。また、デジタルサイネージ等を扱うTBグループの社外取締役や、JCSSA (日本コンピュータシステム販売店協会) 理事、イスラエルのPVN社の役員等に就いてきました。

学生さん、社会人になる皆さんにお伝えしたいこと

私自身のアイデンティティと、商社-製造業-外資系-起業-社会貢献という経験から以下を皆さんに託したいと思います。

① 挑戦する姿勢

「人生はひとつでも一度じゃない」(挑戦は何度も出来る)。バンド・チューリップのリーダー、財津和夫さんの曲からです。大腸がんという大病を患った現実をまず受け入れて、前向きに捉える姿勢に共感しました。

② 選択肢をもつこと

名刺は3枚持つ人になれると良い(組織より社会)。働き方改革もあり、日本でも、会社生活においてマルチな選択が許される時代になってきました。何事にもオプションを持つことは豊かさの源泉となります。

③ スキル

伝わるコミュニケーション能力が大事。伝えるではなく伝わるメッセージが重要です。教えるでは人に響かず効果も少ないと思います。特に個の力が組織や政府の力に近づいた現代では、伝わる技術は必須です。英語ではUSER EXPERIENCEと言われます。営業も発言より聴く力が基本的に重要です。伊藤忠で、「おまえはパテントか? 詐欺師か? 教祖か?」と言われ、どの営業スタイルを目指すのかを学びました。

④ 洞察力

変化を読む力が大事。そのために時間軸を拡げて観察したり(歴史)、定点観測や自分の価値観を固定すると未来が読めてきます。情報は無料(検索エンジン)、判断はAI。こういう時代には洞察力が必須能力になります。世界の潮流はNIC(米国国家情報会議)が新大統領就任時に発行する「Global Trends」(20年後までを予測した報告書)から伺い知ることができます。

⑤ 技術革新(変化)は読める

米国の家電ショーである「CESショー」などを観れば、凡そのトピックや、5G・IOT・AI・ビッグデータ・自動運転など技術の進歩は簡単に予測できます。自動車メーカーは情報の場の提供会社となり、いわゆる新聞社や放送局は消え、エネルギー産業の担い手は変化します。

⑥ リアルタイム

変化のスピードは今後更に驚速になる。多数の変化ファクター(個人力-技術革新-資源変革)が掛け算で効き、社会の変化速度は速くなり、ウイルスやサイバー攻撃で更に変化に対応する社会システム構築が必須になります。いわゆる新聞は無くなると思います。なぜなら昨日に起きた事を翌日紙で観るのはナンセンスな時代が来るからです。

⑦ これからの付加価値(事業価値)は情報とその分析

過去・現在・未来とも、人的資源は共通の重要事項です。過去の有効資源(付加価値)は石炭、石油から半導体、そして現在は情報になりました。GAFAと、通称「BAT(中国のバaidu、アリババ、テンセントの総称)」が、消費者や顧客企業のデータを収集し、活用しています。このような情報のプラットフォーム(仕掛け)を持つ会社と対抗するには、分析力が必須になります。

⑧ 統計学は大事

これからは、データ分析力が勝負を分けます。データ分析に必要な統計学が非常に重要になります。



PwCコンサルティング合同会社
会長

鹿島 章 さん (新34期)

大学3年の夏に公認会計士をめざす

大学1、2年の時は、専門課程にあがるために単位を取っていましたが、3年生の途中で公認会計士をめざすと決めてからは、資格取得のための学校にも通い、クラブも入らず、友達にも資格取得に集中すると宣言したほどでした。

実は、高校2年の夏休みに伝染性単核球症に罹り、肝機能障害も発症したため無理がきかない状態になりました。それ以来、体調管理には気を使い、自分のピークを越えないよう、何事も計画的に進めていくことを心がけています。

父親の猛烈社員としての働きぶりをみて、自分には向いていないと思い、何か資格を取ろうと考えました。幸い大学4年の夏に公認会計士試験に合格でき、経済学部の先輩の篠原先生がいる監査法人朝日新和会計社に就職しました。篠原先生にはゼミの中村先生の紹介で公認会計士の仕事を教えていただいたことがあり、格好いいビジネスマンという印象でした。官報で合格者発表があった日に電話をいただき「おめでとう、今日事務所に来なさい」と言われ、就職が決まりました。10月から週4日事務所に通い、学生と会計士補の二足のわらじ生活を送りました。

仕事から貴重な経験を蓄積

就職して4、5年は、仕事や顧客先の会社のことを覚えるのに一生懸命でした。篠原先生の抱持ちで顧客を訪問することも多く、若い時から経営者や管理職の方に接する機会があり、ビジネスをする人のものの見方を知ることができました。

監査の顧客企業は化学、製薬の企業が主でしたが、現場に行くことで業種による違いがわかり、それ以外にも不動産や証券会社、地銀、百貨店などいろいろな業種の仕事に携わることで得た知識が後々役に立ちました。バブルが膨らんではいけるまで、こういうことが起こるんだというのを実際に目にすることができたのは貴重な経験でした。

第三セクターも担当し、大阪市、大阪府の仕事もしました。公務員が株式会社(三セク)の経営に携わるということで、監査だけでなくアドバイスをすることも多くありました。自治体という、企業の論理とは違う世界があることも体験できました。

2025年の万博では、車の自動運転のような日本のテクノロジーの実験ができると思います。将来の日本の産業の差別化につながる挑戦をしてほしいと期待しています。

多様なメンバーとのコミュニケーション

社会人になって10年ほどたった時、自ら希望して約1年間、米国アトランタのコンサルティング部門にトレーニーとして派遣されました。あまり日本企業が進出していない都市で、コンサルティング部門約150人のうち日本人は一人という環境でした。コンサルティングビジネスということからか、判断の軸や進め方など日本との違いを感じることはほとんどなく、原理原則は変わらないと学びました。米国人にも本音と建前があり、本音を聞けたのは貴重でしたし、その後、海外の人と仕事するうえでいい経験となりました。

日本での会計事務所発のコンサルティング業務は数人、数十人で始めました。その後複数回の組織再編を経てPwCのコンサルティング業務は、いまや会計士だけでなくバックグラウンドの違う多様性のあるメンバーが集まる3,000人規模の組織となり、日本でもひとつのインダストリーとして確立されたという実感があります。数十人であれば目が行き届き一人一人と話せますが、100人を超えてくると一人ではリードできません。トップマネジメントの方針を、マネジメント層に近いリーダーの共通認識として組織に展開していく一方、若い世代やいろいろな層のメンバーと直接会話し、コミュニケーションをとるようにしています。

日本企業のDXを加速化

このコロナの1年間で、日本企業のデジタル化が遅れていることが明らかになりました。いま注目されているDX(デジタルトランスフォーメーション)を実践できている会社はそれほどありません。欧米企業に5~10年遅れており、インフラのデジタル化がまだまだといった印象です。欧米企業に短期間でキャッチアップし、さらに差別化するところまでスピードをあげる手助けをしたい。日本企業の競争力を強化するサービスに力を入れていきたいと考えています。大企業ほど変革は難しいですが、大きく変わるチャンスがきており、そこをとらえてどう進んでいけるかという転換点にあると思います。

この1年間、海外出張はなくなりましたが、グローバルミーティングも含め、オンラインでも会議はある程度できるということがわかりました。ただ、新規事業やアイデアと一緒に作っていくのはオンラインでは難しいということもわかってきました。オンラインとフェイス・トゥ・フェイスをうまく使い分けていこうと考えています。

自分のスペシャリティーを見つける

若い方にとってはたくさんのチャンスがある時代です。それは変化が大きく進んでいるからで、コロナで変わったということもありますが、それ以前から、新しいテクノロジーをどれだけ使えるかが重要になっています。われわれの世代は経験を積むことで習熟度があがるという仕事の仕方でした。しかし、経験値も重要ですが、AI、データサイエンスなどをどう使いこなすかなど、新しいことへの挑戦の価値がとて高くなっています。そういう知識をもっていけばすぐに活躍できる時代になっていますし、それを生かせる会社が成長できるでしょう。若い方にとっては、自分のキャリアをどう考え、どこで差別化し、スペシャリティーを見いだせるか、人生100年時代をどう生きていくかを考えていくことが、成功につながると思います。



帝人株式会社
監査役
嶋井正典 さん（新35期）

大学時代の思い出

大学に入るまで山口県に住んでいて一人暮らしを始めることとなりますが、当初決めていた下宿先とトラブルで入居できなくなり、同郷の友人の部屋から入学式に出席するという波乱の大学生活のスタートでした。学生時代は、アルバイトでお金を貯めては国内各地に出掛けて旅行を楽しんでいました。貧乏旅行でしたが、旅の経験は楽しかったこともあり今でもしっかりと記憶に残っています。

一方、学業の方は、なんとか単位を取って卒業できるようなレベルで、全く誇れるようなものはありませんでした。新開陽一ゼミに入っていました。真面目に勉強する組としない組に分かれていて、私は明らかに後者の方でした。それでも、マクロ経済や簿記の知識は会社に入ってから役に立ちました。大学には勉強する機会がたくさんあるのにそれを利用していなかったのは勿体無かったと社会人になって振り返ることがあります。

就職活動・会社生活スタート

今のようにメールやスマホもなく、コンタクト手段は固定電話だけということもあり、就職活動が始まる頃からアルバイトを辞めて出来るだけ家で待機していました。多くの同期が金融機関に決める中、付加価値を創造できるのはメーカーとの勝手な思いもあり、帝人株式会社を選択しました。卒業の頃には貯金も尽き、卒業旅行で海外に行くことが出来なかったことは残念でした。やはり社会人になって長い休暇を取ることはなかなか難しいですね。

会社に入って、最初に配属されたのは、愛媛県の松山です。松山は帝人にとって主力工場の一つで、製品の原価計算を担当しました。松山で4年過ごした後は、東京・海外・大阪と40歳半ばまでは3～5年の周期で転動していました。素材系やヘルスケア系の事業の企画管理や経理・財務等、さまざまな業務を経験でき、良い運に恵まれたと感じています。

会社生活での経験

特に印象に残っている2つの経験を記したいと思います。

一つは、全社の経営企画部署での経験です。それまで工場しか知らず、周りの上司や先輩との年齢的な違いも大きかったのですが、それ以上に会議で話される経営に関する用語が全く理解できず、場違いの部署に配属されたという思いでした。自分自身も必死でしたが、今思うと上司・先輩達に、ミスがありながらも温かく支えてもらったことで、その後の会社生活に必要なものを身に付けることが出来ました。（学生時代に勉強しておけば良かったと後悔の念）

もう一つは、東南アジア・タイへの赴任でした。タイには、当社のポリエステル繊維工場があり、当時タイは日系企業を含め多くの外国企業が積極的に投資している時代で、街にとっても活気がありました。しかし、赴任2年目の1997年7月にタイで始まったアジア通貨危機を経験することになります。タイの会社は多額の外貨借入があったので、大きな損失を抱え、そこから回復するのに長い時間を要することになります。

そんな中、一緒に仕事するタイ人から、なぜ、いつも深夜まで仕事をするのか？と言われたことがあります。当時は深夜まで仕事することは当たり前と考えていました。でも、なぜ働いているのか？幸福とは何か？と良く考えていくと、タイ人の思考の方が、当たり前で人間的だと思うようになりました。今でこそ、“働き方改革”と呼ばれていますが、タイへの赴任は人生観を変える経験でした。

4年弱の赴任でしたが、今ではタイという国が好きで、帰国後も家族で何度かタイを旅行しています。バンコクは当時と比べる程がないほど発展し大都会となっていますが、料理も美味しく、地方に行けば今も自然が豊かで美しい国です。皆さんも是非旅行してみてください。

プライベート

子供が大きくなって自分の時間が増えてくると、会社を辞めた時、どう過ごすかと考えるようになりました。これまでは散歩か読書で過ごしていましたが、健康も意識するようになり、ゴルフや自転車などにチャレンジし、歳をとってから続けられることを探しています。

最後に、新型コロナは、皆さんの生活に様々な形で影響を与えているのではないかと思います。私の場合、大きく不自由を感じるものではありませんが、これまでとは全く違った新生活様式に。今回の経験を出来るだけ前向きに捉えるようにしています。

最後に故郷の偉人・高杉晋作が詠んだ歌を記します。

面白きこともなき世をおもしろく

すみなすものは心なりけり

新幹事紹介



新69期代表幹事
山澤 正和

この度、同窓会代表幹事を務めさせていた
 だくことになりました、山澤正和と申します。
 学部で過ごしたこの四年間は、環境や友人
 に恵まれ、とても充実したものであったと感
 じています。大阪大学の経済学部は経済・経
 営学科とある通り、経済学と経営学の両方を
 学ぶことができ、経済理論や経済史学、組織
 論や事業創造論など非常に多様な知識を身に
 着けることができました。教鞭を執っていた
 いただいた先生方に感謝しつつ、ここで学んだ知
 識を社会人として働くにおいても是非活かして
 いきたいと考えています。
 また、私はロボットを製作するサークルに
 所属していたこともあり、学部の内外に文理
 を問わず多くの友人を持つことができまし

た。様々な考え方や行動原理を持つ方々と交
 流することで、人間的に大きく成長すること
 ができたと思っています。経済学部の先輩方
 や既に卒業されたOBの方々には勉強や就職活
 動の際に大変お世話になり、とても感謝して
 います。これからもこれらの繋がりを大切に
 し、また大阪大学経済学部のOBとして後輩た
 ちの役に立てるよう一層精進していきたいと
 考えています。
 私は代表幹事として経済学部という繋がりを
 より一層強固なものとするために、微力な
 がら同窓会の更なる発展のため自らの務めを
 果たしていく所存です。皆様には引き続きお
 世話になることと思いますが、どうぞよろし
 くお願い致します。

2020年度経済学部卒業生就職先 (大学院卒を含む)

(順不同)

就職先	人数	パナソニック(株)	3	中国国家開発銀行	1	アビムコンサルティング 上海支社	1	(株)アイ・ピー・エス	1
農林水産省	1	(株)キーエンス	1	中国碧桂园	1	デロイト・マツコンサルティング(株)	1	(株)アイキューブシステムズ	1
経済産業省	1	三菱電機(株)	1	三井住友トラスト・アセットマネジメント	1	(株)リブ・コンサルティング	1	(株)アルファシステムズ	1
近畿経済産業局	1	日本航空電子工業(株)	1	(株)SMB C信託銀行	1	KPMG税理士法人	1	(株)エヌ・ティ・ティ・データ	1
総務省 関東総合通信局	1	富士通(株)	3	三井住友信託銀行(株)	1	日本放送協会	1	(株)オークネット	1
国土交通省 大阪航空局	1	日本電気(株)	1	メットライフ生命保険(株)	1	東海テレビ放送(株)	1	(株)ソフテス	1
鳥取県	1	セイワサプライ(株)	1	日本生命保険(相)	2	DXCテクノロジー・ジャパン(株)	2	(株)ブレインパッド	1
大阪市	1	東京電力ホールディングス(株)	1	明治安田生命保険(相)	2	LINE Fukuoka(株)	1	(株)高知システムズ	1
国際通貨基金	1	関西電力(株)	3	三井住友海上火災保険(株)	3	MS&ADシステムズ(株)	1	(株)新東通信	1
鹿島建設(株)	1	中国電力(株)	1	東京海上日動火災保険(株)	4	NECソリューションイノベータ(株)	2	(株)野村総合研究所	1
大成建設(株)	1	(株)JERA	1	SMB C日興証券(株)	1	NTT西日本ビジネスフロント(株)	1	西日本電信電話(株)	2
三菱地所(株)	1	大阪瓦斯(株)	1	(株)大和証券グループ本社	2	SAN E I(株)	1	船井総研ロジ(株)	1
JR西日本不動産開発(株)	1	大阪市高速電気軌道(株)	2	大和証券(株)	2	Sansan(株)	1	中央コンピューター(株)	1
(株)NTT西日本アセット・プランニング	1	SGホールディングス(株)	1	オリックス(株)	1	アマゾンウェブサービスジャパン(株)	1	日経情報システム(株)	1
サントリーホールディングス(株)	2	阪急阪神ホールディングス(株)	1	(株)ジェーシービー	1	エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)	1	日本テラデータ(株)	1
(株)伊藤軒	1	日本通運(株)	1	楽天(株)	4	グッドルーム(株)	1	日本ユニシス(株)	1
(株)極洋	1	伊藤忠商事(株)	1	(株)QUICK	1	ケイレックス・テクノロジー(株)	1	富士ソフト(株)	1
エーザイ(株)	1	住友商事(株)	1	㈱ニュー・ミックエンタテインメント	1	ケンブリッジテクノロジー・パートナーズ(株)	1	学校法人甲南学園	1
エア・ウォーター(株)	1	双日(株)	1	(株)トムス・エンタテインメント	1	テクニカルソフトウェア(株)	1	学校法人龍谷大学	1
住友化学(株)	1	農林中央金庫	1	(株)ハイシンクジャパン	1	トーアエイヨー(株)	1	小樽商科大学	1
ダイキン工業(株)	2	(株)国際協力銀行	1	(株)ブラップジャパン	1	パーソルプロセス&テクノロジー(株)	1	EY新日本有限責任監査法人	2
(株)クボタ	1	(株)商工組合中央金庫	1	㈱ベイクレント・コンサルティング	2	フラットシステムソリューションズ(株)	1	KPMG監査法人	1
船井上海商務信息咨询有限公司	1	(株)日本政策投資銀行	1	(株)ベーシック	1	(株)CygamesPictures	1	合計	181
富士フイルム(株)	1	㈱みずほフィナンシャルグループ	1	(株)ユーキャン・カレッジ	1	(株)FashionNO.9	1		
東洋紡(株)	1	(株)みずほ銀行	1	(株)リクルートホールディングス	1	(株)Funda	1	進学先	人数
(株)ジーユー	1	(株)三井住友銀行	8	(株)ワンスター	1	(株)FUND BOOK	1	大阪大学大学院	17
川崎重工業(株)	1	(株)三菱UFJ銀行	3	(株)電通	1	(株)NSソリューションズ関西	1	京都大学大学院	1
(株)日立プラントサービス	1	(株)四国銀行	1	世界平和統一家庭連合	1	(株)NTTデータ	1	早稲田大学大学院	1
アイコム(株)	1	(株)日本カストディ銀行	1	EIストラテジー・アドコンサルティング(株)	1	(株)NTTドコモ	1	合計	19
オムロン(株)	1	新生フィナンシャル(株)	1	KPMGコンサルティング(株)	1	(株)Spee	1		
セイコーエプソン(株)	1	中国工商银行股份有限公司	2	PwCコンサルティング(株)	1	(株)アーテック	1	合計	200

2021年3月末現在、大学で集計されたデータをもとに作成したものです。

事務局からのお知らせ

■第24回総会を7月3日(土)に予定しています。ご参加ください。

今年は2年ごとの総会の開催年であり、7月3日(土)、リーガロイヤルホテル大阪において開催するべく準備しています。記念講演は、ローソンの竹増貞信社長にお引き受けいただきました。

通常は、総会、記念講演、懇親パーティーの3部構成で開催しておりますが、コロナ禍の状況によりオンライン開催となる可能性もございます。その場合、同窓会会員の皆様には、新しい形での友人、先輩後輩と旧交をあたためる場としてご参加いただきますようお願い申し上げます。

■今年の経済学部ホームカミングデイは開催見送りとなります。

毎年5月のゴールデンウィークに大阪大学ホームカミングデイが開催されますが、今年は大阪大学90周年、大阪外国語大学100周年の記念式典が開催されるため大学でのホームカミングデイは非開催となりました。それに伴い大学ホームカミングデイにあわせて豊中キャンパスで開催しております経済学部ホームカミングデイも残念ながら非開催とします。

来年は笑顔で集まれることを願っています。